

お米とわたし

愛野小学校 五年 山口 櫻栴

わたしの家族はみんなお米が大好きです。だから、朝ごはんも夜ごはんもお米を食べています。だけど、わたしはあまりごはんが好きではありません。おなかが痛かったり、たぐさん運動をしないといけなかったりするときは、朝ごはんでお米を食べるようにしています。そうではないときにお米を食べたくありません。なぜなら、お米はあまり味がないうし、ゆっくり食べていると固くなるからです。だから、わたしはお米を食べなくてもいいと思います。

ところが、五年生になって、米作りについて勉強しました。お米を作るのにはたくさん作業があって、すごく大変なことを知りました。また、お米を作るための農機具はとても高価で、農家の人たちはみんなで貸し借りをしながら助け合ってお米を作っているのを知りました。それなのに、お米の値段は安く

農家の人たちは借金をしていることも知りま
した。わたしは、そんなことを知らなかった
ので、
「お米なんて、なくなっってしまったらいいの
に……」
と思っていました。だから、お米作りのこと
を知って、ちゃんとお米を食べようと思うよ
うになりました。
そこで、わたしはお手伝いでお米をたいて
みました。お米をきちんと量って、きれいに
洗い、水を加えてすい飯器で炊きました。農
家の人のことを考えながら、初めて炊いたご
飯を食べたらおいしく感じました。いつも
白ご飯かなんだかちがうように感じました。
かめばかむほどあまくて、もちもちしていま
した。思わず
「おいしい」
と言ってしまいました。すると、お母さんと
お兄ちゃんが笑っていました。はずかしくな
って顔を下に向けるとお母さんが

「お米おいしいやろ？農家の人たちがおいし
いお米を一生けん命作ってくれているのだから、
きちんと食べないと失礼よ。」
と言いました。わたしはお米がまだあまり好
きではないけれど、たくさんの人の思いが
まわっているお米を味わって食べるようにして
いきたいです。